

第9回「国基研 日本研究賞」発表

外国人による優れた日本研究を顕彰・奨励

憲法・防衛・歴史認識をはじめ今の日本が直面する様々な国家的課題に対して、日本再生のための活動を行っている民間シンクタンクの公益財団法人「国家基本問題研究所」(櫻井よしこ理事長)が、外国人による優れた日本研究を顕彰・奨励する第9回「国基研 日本研究賞」の受賞者3名を決定した。



大賞にあたる「日本研究賞」にはポーランド、ワルシャワ大学教授のエヴァ・パウシュ＝ルトコフスカ氏、「特別賞」に韓国、成均館大学名誉教授の李大根(イ・デグン)氏と麗澤大学准教授のジェイソン・モーガン氏がそれぞれ選出された。

受賞者3名を選出

日本研究賞の受賞対象作は『日本・ポーランド関係史1904-1945』『日本・ポーランド関係史II:1945-2019』(彩流社)の2巻。

ロシアの両端にある日本とポーランドは、共に大国ロシアの脅威にさらされてきた経緯から早くから政治的・軍事的関係が形成されており、110年を超える長期に渡る両国の関係について

詳細に書かれた類を見ない関係史となっている。ロシアによるウクライナ侵攻もあるこのタイミングでの受賞となり、ロシアの東西に位置するポーランドと日本の生きた関係史であると評価された。

「特別賞」の李大根氏の

『帰属財産研究 韓国に埋もれた「日本資産」の真実』(文藝春秋)は日本統治時代の資産は米軍に接収されたあと大韓民国に移管され、その後の韓国の発展に大きく寄与したことを厳密な資料解析を行い、立証した。

民族反逆者として糾弾されかねない中での高い志が評価された。

また、ジェイソン・モーガン氏の『Law and Society in Imperial Japan: Suehiro Izutarō and the Search for Equity』(帝国日本における法と社会)未弘 弘太郎と衡平を求めて(『米カンプリアプレス』)は大正・昭和期の法学者、未弘 弘太郎についての研究書がある中で、未弘 弘太郎についての単なる研究だけではなく、我が国の法の伝統の中の英米法における衡平(Equity)との共通点を論じた点が独特で、あまり一般の日本人に知られていない法学者に焦点を当てた研究が評価された。

7月13日(水)に東京都内にてルトコフスカ氏の記念講演会を行う。

日本研究賞
ワルシャワ大学教授
エヴァ・パウシュ＝ルトコフスカ
『日本・ポーランド関係史;1904-1945』
『日本・ポーランド関係史II;1945-2019』(彩流社)

日本研究特別賞
成均館大学名誉教授
李大根 (イ・デグン)
『帰属財産研究 韓国に埋もれた「日本資産」の真実』(文藝春秋)

麗澤大学准教授
ジェイソン・モーガン
『Law and Society in Imperial Japan: Suehiro Izutarō and the Search for Equity (帝国日本における法と社会 未弘 弘太郎と衡平を求めて)』(米カンプリアプレス)

7月13日(水) 記念講演会開催 司会/櫻井よしこ
第9回「国基研 日本研究賞」受賞者 エヴァ・パウシュ＝ルトコフスカ氏
※状況により、受賞者がリモートで講演する場合もあります。

日時 7月13日(水) **場所** イイノホール
15時半~17時半(開場15時) (東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル4階)
会費 3,000円(一般) 1,000円(国基研会員)
※事前振込制。当日会場でのお申込みはできません。

講演会の申込み
●お申し込み方法/「記念講演会参加希望」と明記の上、氏名(国基研会員は会員番号も記入)、郵便番号、住所、電話番号を記載し、はがきもしくはFAXでお申し込みください。振込用紙を送りたいします。定員(400名)に達次第、締め切ります。6月22日(水)必着。
※お申し込みいただいた個人情報は参加券の発送のみに使用します。